一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌

ケアマネ通信　やまがた No.12

平成26年度 総会報告

■日 時：平成26年5月31日（土）午後2時～
■会場：山形国際交流プラザ　中会議室

26年度総会が開催されました。その内容を以下に報告します。

開会

5月31日現在　会員数494名
出席者282名（委任状提出者236名）。
定款第30条により、総会が成立した。

1．会長挨拶

今後は、「地域包括ケアシステム」の中身が重要になって来ます。組織としても課題は多く、医療と福祉の連携、生活者の視点を忘れず、来年の制度改正へ向けて、更なる質的向上を目指し、頑張っていきたい。

2．来賓御祝辞

山形県健康福祉部健康長寿推進課長寿安心支援室長、笹原真一様よりご祝辞を頂きました。

少子高齢化を背景に、2025年に団塊の世代が後期高齢者に入ることを踏まえ、①「地域包括ケアシステム」の構築、②制度の持続可能性を高める、を2本柱にして「山形長寿安心プラン」の見直し、市町村への支援等様々な課題に取り組んでまいります。

3．議長選出

村山地区支部の滝口典子氏を選出した。

4．議事録署人選出

山形地区支部の小関千賀氏と鈴木真祐美氏を選出した。

5．議　事

第1号議案　平成25年度事業報告の件

佐藤副会長より、総会、理事会、各委員会、各地区支部等の活動報告があり、承認された。

第2号議案　平成25年度決算の件

星理事より説明が行われ、その後佐藤事務局長より監査報告の代読があり、承認された。

第3号議案　平成26年度事業計画の件

佐藤副会長より総会、理事会、各委員会、各地区支部等の説明があり、提案通り承認された。

第4号議案　平成26年度予算の件

星理事より説明があり、提案通り承認された。
以上、総会は無事閉会した。

平成26年度　総会報告 …… 1
第1回　研修会報告 …… 2
理事会報告 …… 3
山形地区支部より …… 4
委員会報告 …… 5
書籍紹介 …… 6
相談窓口（ケアマネ110番）より …… 7
コーヒータイム …… 8
編集後記 …… 8

平成26年度
第1回
研修会
報告

報道から見た今 社会保障・介護保険改革

◆日　時：平成26年5月31日(土)15時～
◆場　所：山形国際交流プラザ
◆講　師：板垣　哲也 氏（朝日新聞社　編集委員）

本年第1回目の県協会研修会が開催されました。とても暑い中でしたが、50名以上の参加者が集まった密度の濃い研修会でした。

講師は、菅直人厚相時代の旧厚生省を担当し、薬害エイズ問題、介護保険の制度作り、年金、医療、介護などの取材を続けてきた方です。

内容は社会保障全体の状況から俯瞰して頂き、今後の介護保険制度についての論点とあるべき方向性まで詳しく、お話頂きました。

社会保障費の将来推計全体から見ると、少子高齢化で毎年1兆円の自然増が見込まれる。年金以上に医療と介護への対策を講じる必要が生じてきているといいます。

社会保険として始まった介護保険は、必要であれば、誰でも介護を受けることができるという原則があり、措置時代と大きく違うところです。たとえば、利用者負担を一定の所得がある人には2割負担にするという論点が明確になっていますが、そもそも、保険料の納付時に所得は換算され、所得が高い人からは高い保険料をすでに徴収している。このやり方は、介護保険の社会保険としての原則を崩してしまうことになると、板垣氏は主張します。

介護保険の誕生時には、「介護」は家族が行うことという古い見かたの議員がいたり、まだまだ自民党を中心とした政治の中には反対する勢力が多かった。それが自社さ政権というタイミングで大きくすすみ、当時としては画期的な「介護保険制度」が誕生し、これで介護の状況も変わると夢を抱くことができてきた。

しかし、介護保険財政も大きくなっていき、今後の持続可能性を考えなければいけない状況になって、これまでの介護保険の質が変化していくかもしれない。場合によっては措置制度時代に逆戻りしてしまうのではないかと思われるとこともあると述べられました。

講師の板垣氏はとても謙虚で穏やかな口調で語り、かつ分かりやすい講演会でした。介護の現場を実際に理解して、また理解できるであろう人柄がしのばれました。介護保険制度の国民にとってのあり方を考えさせられた内容でした。

研修会に先だって総会が開催され、長い時間にわたりましたが、充実した時間であったと思われます。
理事との懇親会は、当日の新幹線までの短い時間でしたが、こちらも充実した議論が盛り上がりました。企画担当された理事の方々、参加された会員の皆様には、大変お疲れ様でした。

理 事 会 報 告

第15回理事会
（平成26年3月）議事録

日　時　平成26年3月8日（土）　13時30～15時
ところ　ヒルズサンピア山形
出席者　佐藤（裕）　高木　明日　星川
佐藤（貴）　五十嵐　佐藤（稔）　遠藤　丹野
加藤（市）　児玉　荒木　佐藤（一）
佐藤（知）　菅原　藤橋　村山

1. 地区支部報告について
・山形地区　支部役員と県役員とが重複のため苦慮している。
・最上地区　3/26モデル事業の研修会予定。
・庄内地区　12/13第2回ケアマネ大会（170名）、2/22モデル事業の研修会。3/4・5実務研修受講生への入会勧誘
・村山地区　地区医師会の研修に参加
・置賜地区　2/1モデル事業の研修会。

2. 各委員会報告について
・研修委員会　第3回研修会で事前アンケート実施し、効果あった。
・サポート委員会　2月末で123件の相談。
・広報委員会　会報11号作業中。
・調査・研究委員会　アンケートの回収率が悪い。結果は26年度にまとめる予定。
・財務委員会　通常業務執行、課題等を委員会で検討したい。
・総務委員会　会長の代理として各種会議へ出席。
・研修受託事業委員会　受託研修終了。ガイドラインに沿うため事務量が増加。

3. 新規入会者の承認について
資料のとおり入会が承認された。

4. 平成26年度事業計画について
資料により説明があり承認された。

5. 研修受託について
これまでの研修に加え、平成26年度より主任介護支援専門員研修及び実務従事者基礎研修を受託することが承認された。

6. 事務室の移転について
これまで山形県社会福祉協議会に対し要望していた事務室の移転が決定し平成26年度より移動することが報告された。

7. その他
・総会日程
5月31日（土）山形国際交流プラザで開催。

第16回理事会
（平成26年4月）議事録

日　時　平成26年4月27日（日）　10時～
ところ　山形市総合福祉センター
出席者　折居　佐藤（裕）　高木　加地　小関
佐藤（貴）　五十嵐　佐藤（稔）　丹野
加藤（市）　児玉　荒木　佐藤（一）
佐藤（知）　菅原　浜田　藤橋　村山　吉田
荒井　柴田

1. 総会議案について
平成25年度事業報告・決算報告、26年度事業計画（案）・予算（案）について承認された。事務局員1名増員が承認された。
総会は平成26年5月31（土）に開催。

2. 平成26年4月1日会員数
487名。

3. 新規入会者の承認について
資料のとおり承認された。

4. 総会及び第1回研修会について
日時：平成26年5月31日（土）14時～17時
会場：山形国際交流プラザ
講師：板垣哲也氏（朝日新聞社編集委員）
内容：「ジャーナリストからみた社会保障・介護保険制度（案）」

5. その他
・広報委員会より年間計画等の説明があり了承された。
・研修受託事業委員会
更新及び専門研修（課程I）の案内開始。
・村山・庄内地区よりそれぞれ研修会の案内があった。
・次回理事会　平成26年7月12日17時～

山形地区支部より

山形県介護支援専門員協会山形地区支部は6回の設立準備委員会を開催し、平成14年3月23日(土)、設立総会を開催し誕生、同日講師に山形医療技術専門学校理学療法科有馬慶美先生にお願いし第1回研修を開催しました。

設立準備の時から、支部に求められる役割として以下の事を話合っていました。

・介護支援専門員の苦情と相談を受け、会員の意見を反映させていくなどの「相談窓口的役割」。
・研修会の企画・実施、会員のスキルアップ支援などの「質の向上を支援する役割」。
・介護支援専門員のガイドラインつくりや諸問題の分析・研究を行う「専門性の追求・研究」
・「実務面を支援する役割」　・「支援のためのネットワークつくり」

また、その他の意見として、

・介護支援専門員のみではなく、サービス提供者・実践者の意識改革やスキルアップも必要。
・介護支援専門員を「専門職」として自信を持って自覚できるようにしていく方策が必要。

第２回地区支部役員会ではこんな議事録が残っていました。

・第２回研修会は活発な研修会だったが、ハガキの案内が遅い。支出が多く、参加者は41名だったが会計担当者からは参加者数は50名以上、研修会の案内費が大きいので削減方法の検討が必要。
・個々のケアマネへのサポート(悩んだ時の受け皿)・連携体制を作っていこう。

行政のその後の動きを見ると、当時話し合っていたことがその後、現実になっていることが伺えました。

研修会では認知症ケアの人材育成プログラムを永田久美子先生にお願いした時には、約120名の参加者がありました。また、全国協会の前会長、木村隆次先生には隔年でおいで頂いて研修会を行いました。

思い出話が長くなりましたが、現在の山形地区支部活動は衰退しています。前述した「地区支部の役割」はここに来て、思い切った変更が必要になっていると思います。地区支部活動は主に研修会を通して行ってきました。6年前の介護保険改正で地域包括センター機能が出現して、この機能が充実するに従い地区支部での研修会の内容が未熟に感じられ、地域包括で行われる充実した研修会がその地位に取って代わられる様になりました。

「さて、地区支部は何をすればいいだろう？」

ケアマネの実力は上がってきました。はじめはケアプランの作り方、ケア会議の進め方、ネットワークの作り方等は研修会が必要でしたが(今も大切なテーマです)、研修会として開催しなくても相互に教え合う環境になりました。

山形県には5つの支部があり、各々活躍していると会報で読みます。活動が盛んな支部は自ら動く、考える、会員同士のネットワークが盛ん等、毎日業務をこなしているのだろうと思わされた文章が認められます。

さて、皆さん、

ケアマネ協会はケアマネ業務がスムーズに遂行されるために作られた組織です。実務を行っている故に分かる、必要と思われる事を教えてください。それが実現できる組織にしていきましょう。それが会員になるメリットに結び付けたいと思います。

地区支部活動が停滞しています。実務者の、実務者による、実務者のための組織に変更する時期に来ていると思います。

(平成26年6月　山形地区支部長　加藤市左エ門)

委 員 会 報 告

研修受託事業委員会

平成26年度は山形県より介護支援専門員更新研修(実務従事者Ⅰ・Ⅱ)、専門研修(Ⅰ・Ⅱ)と共に実務従事者基礎研修、主任介護支援専門員研修を受託することになりました。研修の予定は下記の通りです。

・介護支援専門員更新研修(実務経験者対象)・専門研修

課程Ⅰ

日程:平成26年6月～8月　33時間　定員200名

会場:県看護協会、ヒルズサンピア山形

課程Ⅱ

日程:平成26年10月～11月　20時間　定員420名

会場:県看護協会、ビッグウィング、いこいの村庄内

・介護支援専門員従事者基礎研修

日程:平成26年度10月～11月　33時間　定員120名

会場:県看護協会

・主任介護支援専門員研修

日程:平成26年7月～9月　64時間　定員80名

会場:ビッグウィング、県看護協会

今年度の研修予定は、当協会のホームページ、山形県のホームページをご確認ください。介護支援専門員証の有効期間を確認の上、更新対象者の方は忘れずに受講下さい。

なお、今国では平成27年度からの制度改正や新たな介護支援専門員研修カリキュラムが検討されておりますので、それらの動向を注視しながら研修を企画運営していきたいと思います。

(委員長　村山正市)

サポート委員

昨年度のケアマネ110番(電話、FAX、ホームページ掲示板など)への相談件数は134件でした。相談内容は、介護保険制度、ケアマネジメントについてなど多岐にわたっています。テレビなどでも認知症の話題が多く、時々特集を組んで放映されていますが、ケアマネが介護者のレスパイトとして短期入所を組んでも、夜間不穏などを理由に受け入れて貰えないという相談がありました。

なかなか解決が難しい相談ですが、ケアマネ支援としてサポート委員も頑張って取り組んでいきたいと思います。

(委員長　荒木昭雄)

委 員 会 報 告

研修委員会

去る5月31日（土）、朝日新聞社編集委員の板垣哲也氏を招いての研修会を開催し、盛況の内に終了いたしました。今後の介護保険の行く末を考える上でとても参考になりました。参加された方々、協力していただいた役員の皆さまにお礼を申し上げます。

第２回研修会は、9月13日（土）午後、講師に日本介護支援専門員協会の鷲見よしみ会長をお招きして、ビッグウィングにて開催する予定です。介護保険制度改正に向けて、より具体的な内容の研修会になると思われます。

多くの方々のご参加をお待ちします。詳細は後日あらためて案内させて頂きます。

（委員長　高木知里）

広報委員会

26年度も年4回の「ケアマネ通信　やまがた」を発行させて頂きます。会員の皆さまには原稿のご協力などお願いすることもあるかと思いますがよろしくお願い申し上げます。　（委員長　佐藤知生）

書籍紹介

「食と栄養」常識の落とし穴

著　者：加藤秀夫
発行所：祥伝社

人生80年の時代になって「健やかに長生き」をするには、食生活が多少乱れていても「今なんでもないから大丈夫」とタカをくくっていてはいけません!!

この本は今話題の「時間栄養学」に基づいた科学的健康情報を「わかりやすく」「知って得する」内容を簡潔明瞭にまとめられた、私一押し!!の一冊です。

＊時間栄養学とは食事の量や質だけでなく、体の体内時計とコラボレーションさせた新しい栄養学の考え方です＊

身体にいいとされる食材・食品も食べ方次第では「毒」に変身すること。いつ、どのように食べたらいいのか、根拠に基づき解説してくれています。

例えば「痛風」の敵はビールより納豆にあった!!

「ダイエットの敵」は朝食抜きにあり!!

「瑞々しい肌」を保つにはコラーゲンより「生のクレソン」等、どれだけCM情報が怪しくて、思い込みが多いかびっくりです!

ここで解説するにはページが足りないので気になる方は是非!読んでみて下さい。

今から始める介護予防!

みんなで延ばそう健康寿命!!　（i.kiku）

ケアマネ110番より

相談窓口（ケアマネ110番）より

このコーナーでは山形県介護支援専門員協会相談窓口に寄せられたご相談と回答をお伝えします。

余命宣告された方の短期入所

質問　80代前半の高齢者夫婦世帯で、旦那さんを奥さんが介護しています。胃癌で胃を切除しています。子供茶碗にお粥を食べられます。栄養補助品も食べています。歩くことができず、介助量が増え、奥さんの負担が大きく、訪問看護師が来た時に買い物へ出かけています。余命宣告を受け半年と言われ、半年が過ぎました。しかし、短い時間での外出だけで、夜間も寝られず疲労が来ているように感じ、短期入所利用を訪問看護と勧め本人も2日ぐらいであればとなり、短期入所事業所をあたりました。が、夜間体制がととのっていない、緊急時はどうするなど等理由をつけ利用できなくています。本人は以前短期入所利用した時があり、食事全部ミキサーにされたと嫌な思いがあります。訪問看護だと安心できるけどヘルパーさんだと安心できないと言われています。主介護者の奥さんの息抜きをさせてあげたいのですが、どんな方法があるかアドバイス下さい。

回答　平成23年度に村山保健所が『在宅療養支援のための手引き』を作成され、その中に、在宅療養支援に関わる関係機関として、特養、老健に調査をして一覧にしてあります。その中に、「がん患者受入れ」として受け入れ可能な短期入所が多く記載されていますので、受け入れが可能か問い合わせてください。同じく村山保健所、在宅ケア研究会より「看取りに関する手引き（在宅及び高齢者施設等における看取り）改訂版　H26.3月」が出ており、P46のQ&Aに急変時の対応が示されていますので右記に示します。

介護食品として、ミキサー食だけではなくソフト食も提供されている施設が多くあります。食事の内容、使用している薬剤、症状への対応、緊急時の対応など主治医、訪問看護を含めたサービス担当者会議で十分話し合いをすることで本人、奥様、施設職員が不安を緩和されショートステイの利用ができるのではないのでしょうか。また、余命宣告を受けていますので、必要に応じて医療保険での訪問看護も可能かと思われますので、緩和ケア病棟への申し込みや、病院でレスパイト入院など、ご本人やご家族、主治医と相談されてはいかがでしょうか？

Q3）ショートステイ利用中に利用者の方の容態が急変しました。この場合、どのように対応したらよいでしょうか？

A3）　たとえ短期の利用であったとしても、その間に急変しないという保障はありません。ショートステイにおける看取りについては、今後、検討が必要だとは思いますが看取りを前提としていなくても急変はあり得ます。そのためにも、日頃から施設内で、利用者の方の急変時の対応について話し合っておく必要があります。容態の急変ということであれば、救急車を呼び、病院へ搬送することも必要かもしれません。また、事前に、ショートステイ利用中であることをFAX等で主治医に伝えておくと、いざという時には、主治医に連絡し指示をもらうことも可能になると思われます。スムーズな連携のためにも、事前の準備が必要です。

ほっと　ひといき　コーヒータイム

5月4日、実家で法事があった。90歳で亡くなった祖母の七回忌だった。

久しぶりに祖母のことを思い出した。

祖母は介護認定を受けていた。自宅での介護を続けていたが晩年は施設に入っていた。

実家は埼玉、帰省するたび施設に会いに行ってはいたが、それでも顔を見せられるのは多くて年に3回だった。会いに行くとお互いの近況を話したり、散歩に外に出たり、とても喜んでくれたものである。特にひ孫の成長はとても喜んでいた。そして、毎回必ず私に聞くことがあった。それは、『子供は（祖母にとってのひ孫）ご飯たべられているか？』『学校は行かせられているのか？』だった。私が『ご飯食べられているよ』『学校も行っているよ』と答えるととても安心した表情をした。仕事があって、ご飯が食べられて学校にも行ける。現代では当たり前のような生活が、戦後何もない時代を生き抜いてきた祖母にしてみると、唯一であり最大の心配事だったのだろう。

お経を聞きながらそんなことを思いだしていた。当時はたいして気にも留めていなかった会話だったが、祖母が亡くなりこうして思い出してみると孫の私やひ孫への無償の愛の言葉だったように思われる。

祖母の介護は実家の父母に任せっきりだった。いずれ父母がそうなったときは今度こそ・・・。

連休の残りは、旧友との再会、実家の父母を連れての外出など十分に楽しんだが、1日は祖母の事を思い出せたいい休暇になった。

（E・A）

蔵王　お釜

熊野岳から地蔵岳を望む

編集後記

今年は来年の法改正へ向けた情報収集や増加する認知症に対する学びが増えると思います。微力ですが、広報活動にて情報を発信していきます。

一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌
ケアマネ通信　やまがた　No.12

発行日／平成26年７月
発行人／折居　和夫
発行所／一般社団法人 山形県介護支援専門員協会
〒990-0021 山形市小白川町2-3-31
山形県総合社会福祉センター内
TEL 023-615-6530　FAX 023-615-6521
E-mail：yacm@pony.ocn.ne.jp

印刷・製本／田宮印刷株式会社
〒990-2251　山形市立谷川三丁目 1410-1
TEL 023-686-6111　FAX 023-686-6114